決算をお知らせします

当健康保険組合の平成25年度決算が去る7月11日に開催された組合会において承認され、決定いたしました。

経常収入	経常支出	経常収支差引額
99億8,678万円	80億237万円	19億8,441万円

平成25年度は黒字決算に転換

平成25年度は、保険料率を改定したこと、証券市場の活況により賞与額が増加したことから、前年度の赤字決算から19億8,441万円の黒字決算に転換しました。この結果、25年度末の別途積立金は38億円、財産合計額は約56億円になりました。

主要項目をみていくと、収入では保険料収入が前記の要因により前年度比約25億円増加した一方、支出では前期高齢者納付金や後期高齢者支援金等の納付金も同3億円近く増加しました。また、保険給付費は同約8,400万円の減少、保健事業費も人間ドックの対象年齢を34歳に繰り下げたことから同約4,300万円減少しました。

財政状態は改善するも、納付金負担増は継続する見込み

以上の通り、当健康保険組合の財政状態は前年度と比較すると大幅に改善しました。しかしながら、磐石の状態というわけではありません。この「けんぽだより」で繰り返しお伝えしているように、前期高齢者・後期高齢者の医療費が毎年約1兆円規模で増加しており、今後も納付金は着実に増加していくことが見込まれております。

また、新聞報道の通り、後期高齢者支援金の計算方法を総報酬割に変更することが議論されております。これが実現すると当健保組合の納付金負担額は大幅に増加することになり、再び赤字決算を余儀なくされる可能性があります。

さらに、平成27年度よりデータヘルス計画の実施が求められており、保健事業費も一定の支出が必要となります。当健保組合では、効率的な保健事業の実施に努めてまいりますが、皆様におかれましても、ジェネリック医薬品の使用、不要不急の時間外受診を控える等、引き続き保険給付費の節減にご協力いただきますようお願いいたします。

おもな収入

●保険料収入
被保険者の皆様（グループ役職員、任意継続被保険者、特例退職被保険者）と事業主から納めていただいた保険料です。

●国庫補助金収入
特定健診・特定保健指導の実施等において、国に代わっての健保事務執行に対する補助金です。

おもな支出

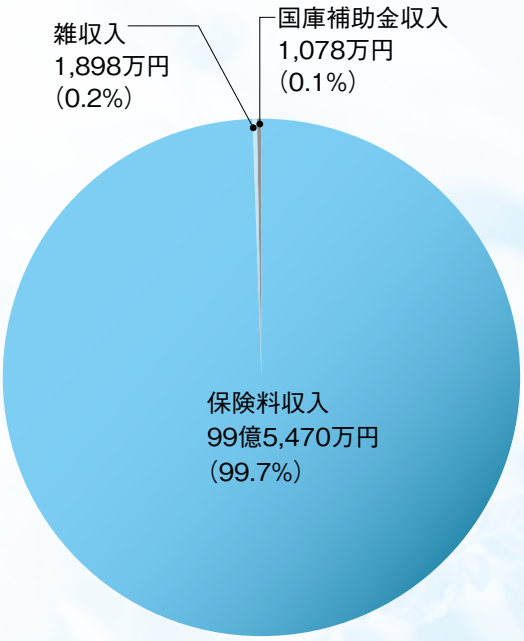
●保険給付費
加入者皆様の医療費（健保組合負担は通常7割）のために支払った費用です。法令に基づいて支払った「法定給付費」と、当健保組合独自の規程に基づいて支払った「付加給付費」があります。

●納付金
後期高齢者支援金（75歳以上）、前期高齢者納付金（65～74歳）、退職者給付拠出金（グループ役職員以外の60～64歳）の合計額です。ともに、当健保組合に加入している方以外の国民健康保険や、後期高齢者医療制度に加入している方の医療費に充当されています。

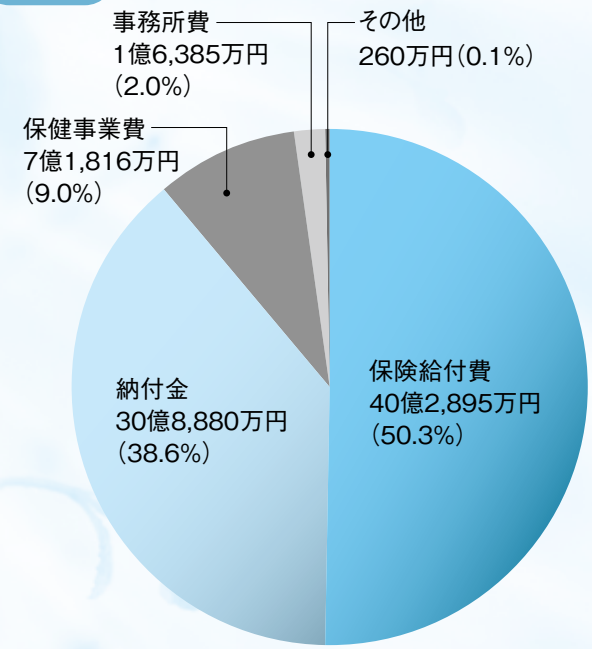
●保健事業費
特定健診（40歳以上）・人間ドックや被扶養者健診を始めとした各種健診、特定保健指導、インフルエンザ補助金、保養所の補助金等、当健保組合加入者皆様の疾病予防や健康づくりのために使われた費用です。

一般勘定（健康保険）

収入



支出



決算の基礎数値（一般勘定）

総加入者数	28,911名
被保険者数	14,303名
平均標準報酬月額	488,608円
被保険者平均年齢（特退退職被保険者除く）	39.29歳
健康保険料率	85/1,000

●財産保有状況

（一般勘定）	
準備金	17億9,400万円
別途積立金	38億0,000万円
その他財産	2,529万円
合計	56億1,929万円
（介護勘定）	
準備金	2億5,000万円

介護勘定

収入合計
7億5,805万円
※支出合計
5億8,409万円
収入支出差引額
1億7,396万円

※介護納付金の金額です。

決算の基礎数値（介護勘定）

第2号被保険者数（40～64歳）	9,834名
第2号被保険者たる被扶養者数	6,415名
平均標準報酬月額	605,871円
保険料率	11/1,000